

令和6年7月19日



相談室からのお手紙（7・8月号）

愛媛県立松山中央高等学校

松山市民ミュージカルに行ってきました。私の友人が出演していて、今回は人間に憧れた人魚姫の物語でした。ミュージカルに出演しているのは子どもも大人も全員一般の人たちです。普段は学校に通っていたり、会社員だったり（そしてスタッフもボランティアの方々）。オーディションを受けて選ばれた165名の出演者が4か月の練習を重ねて作り上げたミュージカルは、毎年2日間上演されています。

ストーリーや演出、演技、歌などの内容も素晴らしいのですが、私が毎回感動するのは、その出演者さんたちの姿です。本当に一生懸命で、楽しそうで、その姿に「みんな素敵だよ！ 輝いているよ！」と涙になってしまいます。

上演前に友人が「本気で役に入り込んでいて、感極まってね。みんな泣いたの。大人がみんな泣いていて、周りを見たら子どもたちもみんな泣いていてね！ 当日までまだ2週間もあるのに、どうなるんだろうね」と笑っていました。このようにみんなが全身全霊で打ち込めて、舞台の上で一つになれる経験は、人生の中でどんなにすばらしく、尊く輝いていることでしょう。

中央高校のみなさんにとって、卒業後には二度とないかもしれない学校行事はあといくつあるでしょうか。みなさんが「やり切った！」と達成感にあふれるものであったらと思います。「私は今、生きてる！ 生きていて良かった！ 生まれてきて良かった！」と幸福感に全身に震えがくるような体験は、一生に何度もあるものではありません。思いっきり、真剣に、自分の全てで挑んでみる、そんな自分を、大好きになれて肯定できる経験をしてくださいね。

スクールライフアドバイザー 岡本 綾

★スクールライフアドバイザー来校予定日（12：00～18：00）

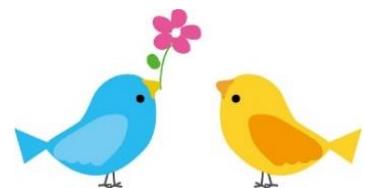
7月23日（火）・25日（木）

8月20日（火）・22日（木）・27日（火）・29日（木）

★メールアドレス

kawamin_chuosoudansitu@school.esnet.ed.jp

★生徒の皆さんだけでなく、保護者の皆様も、気軽に利用してください。なお、メールの返信は遅れるかもしれませんが、スクールライフアドバイザーが必ず返信します。





「どうにかなる人生」

できない時もあるけど頑張れば「どうにかなる」
無理をしない…でも…ちょっと無理をするよ。

新居浜市出身の画家・版画家である石村^{よしなり}嘉成さんの言葉です。

この言葉は、2023年に墨の文字で表現された作品。力強い筆跡で、紆余曲折でありながらも、周囲の人との出会いや支えによって、人生が切り開かれていった石村さんの人生と重なる言葉です。

1学期を振り返ると、慌ただしく日々が過ぎていきました。学校行事も年度初めから、コロナ前と変わらぬ形でスタートしました。日々の営みについていくのが精一杯というのは、生徒だけでなく、教員もそうかもしれません。やるべきことに常に追われていると感じる日々ですが、しんどい時、心の支えになってくれるのが、「どうにかなる人生」という言葉です。何もしなくてもどうにかなるというのではなく、ちょっと無理をする、少し頑張るというところが自分にはしっくりきます。あと一歩だけ進もう、と思いながら、毎日を過ごしています。

夏休みは、頑張って走り続けてきた1学期に区切りをつけるのにとってもいい時間です。家族で共に過ごす時間、人との出会い・再会、旅行、やりたかったことができる時間、などなど、心と体をリフレッシュさせてくださいね。

学校には、夏休み明けに生徒の皆さんを悩ませる、夏休み課題、テストという存在がありますが、上手に夏休みに休憩の時間を取ることによって、また歩き始めることができると思います。「こんなはずじゃなかったのに…」「困ったなあ」「だれかに聞いてほしいなあ」というときは、ぜひ、教育相談室をのぞいてみてください。

教育相談課 Y

